

国内クレジット認証委員会御中

審査結果概要書

平成 25 年 2 月 15 日

審査機関名 ペリージョンソン レジストラー
クリーン ディベロップメント メカニズム株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	ボイラーの更新による省エネルギー事業
排出削減事業者名	日本アスパラガス株式会社
排出削減共同実施事業者名	一般社団法人 低炭素投資促進機構
事業実施場所	日本アスパラガス株式会社 千歳工場： 北海道千歳市北信濃 864-6
事業の概要	清涼飲料製造工場において殺菌用蒸気製造用 A 重油焚ボイラーを高効率の都市ガス焚ボイラーに更新することにより、省エネルギー化および CO2 排出削減を図る。
排出削減量の計画	2012 年度：282 tCO2/年 (事業実施期間合計 282 t-CO2)
国内クレジット 認証期間	開始日 2012 年 12 月 11 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している。

3. 実施した審査手続きの概要

審査手続きにより、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続き
----	-------

<p>日本国内で実施されること</p>	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所： 日本アスパラガス株式会社 千歳工場 北海道千歳市北信濃 864-6</p>
<p>追加性を有すること</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本排出削減事業は法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、省エネルギーおよび CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを本排出削減事業者、その他関連事業者への質問等により確認した。 2) 本事業が実施されない場合に既存ボイラーが継続して使用可能であることを、既存設備の稼働記録、燃料調達記録、メンテナンス実態、本排出削減事業者への質問等により確認した。 3) 本事業の投資回収年数については、本排出削減事業者、その他関連事業者への質問、燃料価格、設備費用等入手した根拠資料を基に計算した結果、本事業計画書に記載された 3.1 年であることを確認した。また、本事業では補助金（環境省：平成 24 年度エネルギー使用合理化事業者支援補助金（民間団体等分））を受領し、投資回収年数算定では補助金分が控除されていることを確認した。 4) 既存設備は継続して使用可能であり、投資回収年数も長いいため経済的見地から判断して本事業が魅力的な案件とはなり得ないが、国内クレジット制度の活用による CO2 削減活動と事業者の環境 CSR 効果の期待のマッチングが本事業への投資決定の重要な要因となったことを確認した。
<p>自主行動計画に参加していない者により行われること</p>	<p>排出削減事業者への質問等により団体への所属が無いことを確認し、自主行動計画に参加していない事業者であることを確認した。</p>

<p>排出削減方法論に基づいて実施されること</p>	<p>本事業では、承認排出削減方法論 001「ボイラーの更新」に基づき排出削減量を計算しており、また方法論の適用条件を満たしていることを確認した。</p> <p>【001】「ボイラーの更新」</p> <p>適用条件 1：更新後設備の現地目視確認、更新前設備に係る資料の確認などにより、高効率設備に更新されていることを確認した。</p> <p>適用条件 2：既存設備である A 重油ボイラーの使用年数について、法定耐用年数である 15 年の 2 倍を超えておらず、また現地での設備稼働記録、燃料使用記録等の資料の確認及び事業者への質問により、更新時において問題なく継続して使用可能な状態であったことを確認した。</p> <p>適用条件 3：事業実施場所での目視確認、蒸気系統図、関係者への質問等により、更新後ボイラー設備により生産した蒸気を事業所内の熱利用（殺菌）のために用いることを確認した。</p> <p>その他、バウンダリーの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリング方法、モニタリング対象の QA/QC が適切であることについて、排出削減事業者および関係者への質問、関連書類の閲覧により確認した。</p>
----------------------------	--

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

4. 特記事項

無し。

以上